

## エネルギーッシュな町！

2018年もパリは人々を惹きつけ、またインスパイアしてくれます。訪れる人々をますます温かくお迎えし、より革新的に、よりエコ・コンシャスに、より賑やかに、21世紀の都パリは輝きを増しつつ変貌を続けます。とりわけ文化イベントの充実ぶりは特筆もので、間違いなくパリの第一の切り札といえるでしょう。さまざまな格式高い、あるいはユニークな施設の新規オープン……。美術館、トレンディなバー、ギャラリー、デザインホテル、絶対はずせない見どころ、人気のレストランなど、パリはかつてなく注目を集め、パリジャンだけでなく観光客にもサプライズを与え続けています。

**イベントの生まれる街パリ** パリでは一年を通じて、あらゆる領域にわたるイベントが毎日300近く開催されています。最も人気が高いイベントに挙げられるのが音楽の日Fête de la Musiqueや美術館の夜la Nuit des musées、文化遺産の日les Journées du Patrimoine、革命記念日le 14 Juilletの花火、セーヌ河岸をビーチに変えてしまう夏のイベント、パリ・プラーージュParis-Plagesや市内各地に夜通し多くの芸術作品が展示されるニュー・ブランシュ Nuit Blanche。シャンゼリゼ大通りの光り輝くクリスマスのイルミネーションles illuminations de Noëlや大晦日の賑わいも見逃せません。

2018年のパリでは、魅力的な美術展がいくつも開催されます。リュクサンブール美術館ではイタリアルネサンスの画家ティントレット展、ルーヴル美術館ではウジェーヌ・ドラクロワ展、ジャック・マルム・アンドレ美術館ではメアリー・カサット展、オルセー美術館では「ピカソ、青の時代とバラ色の時代」展、装飾美術館では「芸術家たちの宝石~ピカソからジェフ・クーンズまで」展等々。また近代・現代アートがお好きなら、今年もパリで世界に名だたる芸術家たちと出会えます。グラン・バシでホアン・ミロ展、マイヨール美術館でジャコモッティ展、ボンビドーセンターでキュービズム展、そして必見のイベント、国際コンテンポラリーアートフェアFiacや、アート・パリ・アート・フェアも。

またファッション好きなら装飾美術館musée des Arts décoratifsとパレ・ガイエラPalais Gallieraへ。メゾン・マルジェラMaison Margielaをめぐる2つの展覧会が開かれています。デザインに興味がありの向きにはパリ・デザインウィーク、インテリア業界のパリコレともよばれるメゾン・エ・オブジェMaison & Objet、デザイン蚤の市les Puces de Design、現代の作品とデザインを人々に知ってもらうために始まったデザイナーズ・デイズDesigner's Daysがおすすめです。

グルメ関連も、フーディングFooding やオムニヴォールOmnivore、美食の祭典la Fête de la Gastronomieや« グードフランスGoût de France / Good France 」、« トウス・オ・レストランTous au restaurant (みんなでレストランへ行こう) 」、テイスト・オブ・パリTaste of Paris (人気店の看板料理試食) などグルメのスケジュール帳には楽しいイベントがぎっしり。

スポーツもローラン・ギャロス・スタジアムでのテニス、全仏オープンRoland-Garros、自転車ロードレース、ツール・ド・フランスTour de France cyclisteのゴール、競馬のアメリカ賞Prix d'Amériqueやディアヌ賞Prix de Diane、馬術障害飛越のワールドカップ決勝、パリ・マラソンmarathon de Paris、第3回フォーミュラEパリ賞など、わくわくするイベントが目白押しです。8月に開催されるゲイ・ゲームスGay Gamesは数ある夏のスポーツイベント中のハイライト。パリは数々のスポーツのビッグイベントが開催される必見の都市でもあります。2018年は第42回ライダーカップRyder Cupがパリ郊外のル・ゴルフ・ナショナルで開催されるほか、第13回女子ハンドボールヨーロッパ選手権大会もあります。これらのスポーツイベントは2023年のラグビーワールドカップフランス大会や2024年パリ開催が決まった夏季オリンピックなどへの前哨戦となることでしょう。

パリでは毎年多くの業者向け、一般向け見本市が開催されていますが、2018年は国際農業見本市(2月)、ジャパン・エキスポ(7月)、サロン・デュ・ショコラ、120周年を迎える国際モーターショーMondial de l'Auto(10月)、そしてホテル業・サービス業のプロ必見のエキップホテルEquipHotel(11月)などがとりわけファンの注目を集めています。



© Musée du Luxembourg



© Centre Pompidou Dist. RMN-GP



© Ryder Cup 2018

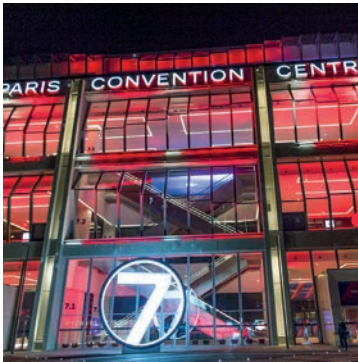


© Amélie Laurin

**パリには新名所が続々** パリには毎年新たな文化スポットが加わり、その魅力はいやがうえにも増えています。2016年12月には香水大博物館Grand musée du parfumがオープンし、フランスが誇る香水という芸術に高貴な位が与えられました。2017年はファッションと音楽が栄誉に浴した年。イヴ・サン・ローラン博物館musée Yves Saint Laurent、およびパリ西郊のセーヌ川中州スガ島にはラ・セーヌ・ミュージカル La Seine Musicale がオープンしました。2018年春にはラファイエット・アンティシパシオン財団Fondation Lafayette Anticipationがマレ地区に現代アートの創作と展示のスペースをオープンします。またパリ11区の鑄物工場跡地には光のアトリエAtelier des Lumièresという全く新しいタイプのデジタルミュージアムが誕生します。パリにはここ4年ほどの間に多くの新名所が誕生しました。現代アートのルイ・ヴィトン財団美術館、大規模コンサートホール、フィルハーモニー・ド・パリPhilharmonie de Paris、ストリートアートのArt42などが完成したほか、ピカソ美術館やロダン美術館、そしてオーンス・コンティ 11 Conti の名称でパリ造幣局博物館がリニューアルオープンしています。

**輝ける街・パリ**は第7の芸術である映画とも密接につながっており、数え切れないほどの映画やテレビの連続番組がパリを舞台に撮影されています。まるでオープンエアのセットのようなパリの街を、「アメリカ」や「ミッドナイト・イン・パリ」などの出演俳優や名場面に関連した場所めぐりで楽しむ観光客も数知れません。これらに続いて「ミッション：インポッシブル」や「ファンタスティックビーストと魔法使いの旅」でもパリが舞台になっています。また特筆すべきイベントとして短編映画の国際フェスティバル「The 48 Hour Film Project」の初のパリ開催がこの3月に予定されており、パリと映画界の密接な関係が改めてうかがえます。

またパリには各種スポーツ競技会と観戦ファンを最良のコンディションで受け入れる設備がすべてそろっています。アコーホテルズアリーナAccorHotels Arenaではスポーツイベントのみならず各種のショーやコンサートも開催できますが、これに続いてバルク・デ・プランスParc des Princesは2016年半ばにリノベーションを終え、近郊のナンテールではUアリーナU Arenaが2017年10月にオープンしました。



© Viparis - Bullit Studio

パリは高品質で多様性に富んだ施設の数々により、業者向けイベントの開催者から非常に高い評価を受けています。世界有数の国際会議都市はまた、見本市や企業のイベントに最適なデスティネーションでもあります。ここにヨーロッパ最大の国際会議場が加わります。ポルト・ド・ヴェルサイユの**パリ・コンベンションセンター**（敷地面積7万2000㎡、収容人数3万5000人まで）です。

大規模な整備工事が続行中のポルト・ド・ヴェルサイユ見本市会場Parc des Expositions de la Porte de Versailles は、2024年には新世代の施設がその全貌を現す予定で、多くの名だたる建築家たちがこの大変身プロジェクトに関わっています。同じ発想で、パリ・サクレーParis Saclayの経済地域には2018年春に新たな国際会議場がオープンします。またイベント会場も新設で貸切可能な施設が次々にできており、革新的なコンセプトでますます充実したサービスを提供しています。

**人を惹きつける町パリ** パリはそのライスタイルを日々新しく塗り替えています。ホテル業界では、全体の収容客数、バラエティーに富んだ施設の数とも増え続けています。パリの評価を高めている超高級ホテルは、獨創性を競いつつパリジャンそしてビジターたちを引きつけるための努力を惜しみません。老舗のパレス級ホテルでは大改装工事が進んでおり、リッツle Ritz、ホテル・ド・クリヨンl'Hôtel de Crillonに続いて新装再オープンするのは左岸の雄リュテシアle Lutétia、そしてフーケツ・バリエールFouquet's Barrièreです。パリ市内には、革新的で驚くようなコンセプトを導入し、テーマを持ったホテルも数多く、まったく新しいスタイルの滞在が経験できます。その例としてパリストールle Parister、ヨーマle Yooma、ブラック・パリle Brach Paris、さらにはオッコホテルl'Okko Hotelや二エツプス・パリ-キュリオ・コレクション・バイ・ヒルトンNiepce Paris, Curio Collection by Hiltonなどが競って新世代の旅人だちを惹きつけています。



© Hôtel de Crillon

食の分野でも、シェフたちは新店舗を開いてより創造性に富んだ料理を提供しています。サン・ラザール駅に出店したエリック・フレションEric Frechon、北駅にはティエリー・マルクスThierry Marxが「エトワール・デュ・ノールEtoile du Nord」をオープン。世界にその名をとどろかす名シェフ、アラン・デュカスAlain Ducasseはといえばヴェルサイユ宮殿の一面のレストラン「オールオレ」に続き、ブルス広場にスプーン2 Spoon 2をオープンしました。一方「ビストロノミー-bistronomie」は、ビストロの精神と美食の絶妙なコラボで、こちらも人気が続中。続々と新しい店がオープンしています。こうした食の新名所は本物の味と地元でとれる素材のエキスパートで、今や立派な旅のテーマのひとつとなり、アラン・デュカスやコルドン・ブルーなど一流校の料理教室やグルメツアーはますます大盛況です。そのほか、バージョンアップしたストリート・フードや、小規模農家から取り寄せた食材を取り扱ったレストラン、豊富な食材が並ぶ市内各地の市場などパリには美味しいスポットがいっぱいです。





© OTCP

パリは今までも、そしてこれからもファッション、高級ブランド、そしてショッピングの中心地です！ハイライトはといえば春秋のバリコレの時期はもちろん、1月と7月の冬物、夏物のバーゲンもはずせません。年間を通じて旗艦店のオープンや期間限定のブティック、さまざまなアトラクションがお洒落な新し物好きたちを惹きつけます。オスマン通りやマレ地区、シャンゼリゼ、モンマルトル、サン・ジェルマン・デ・プレなど世界中の観光客で賑わう12の地域の店は週末も営業しているため、日曜日でもショッピングが楽しめます。新しくオープンした店もさまざま。ルーヴル美術館の地下街カルーゼル・デュ・ルーヴルCarrousel du Louvreにはまたひとつ魅力的な店が加わり、150店舗を有するフォーラム・デ・アルForum des Hallesは全面改装されました。ラ・ヴィレット地区にはショッピングとレジャーが融合したユニークな施設ヴィラップVill'Upがオープン。左岸のデパート、ル・ボン・マルシェの高級食品館ラ・グランド・エピスリーLa Grande Épicerieは右岸のパシー地区に2号店をオープンし、大人気のイタリア食材店イータリーEatalyもフランスに進出。ルイ・ヴィトン Louis Vuittonはヴァンドーム広場に豪華な店を構えました。プランタンデパートLe Printemps は美容・化粧品スペースを拡張するとともに、2フロアにわたるグルメに特化した売り場も新設しました。高級食品品のエディアル Hédiardの新装再開が待たれるほか、ギャラキー・ラファイエットデパート Galeries Lafayetteも2018年にシャンゼリゼ出店が予定されています。また世界のさまざまな格式あるブランドも、よりデザインなスペースに店を開いてサービスを競い合っています。パリの各地で多くのブティックが既存概念を取り払い、多様な商品を提供して有名デザイナーのファンからヴィンテージ品の愛好者、フレンチタッチの信奉者やエスニックの熱狂的ファンなどさまざまな人々を惹きつけています。



© Folies Bergère

夜、パリはさらににぎやかで和気藹々の雰囲気に包まれます。パリのスタイルは、さまざまなジャンルや時代をとりまぜる、というもので、この街ならどんな要望にも応えられるのです。グラマラスな魅力にあふれる伝統あるキャバレーやトレンドなクラブもあれば、どのジャンルにも収まらないスポットもあり、常設必見の店もあれば臨時開催のソフレもある。パリのナイトライフは実に多種多様です！レビューの世界に目をやれば、この10月にはフォーリー・ベルジュールで一風変わった出し物が予定されています。「ジャン＝ポール・ゴルティエ ファッションフリークショー Jean Paul Gaultier Fashion Freak Show」で有名デザイナーのなかなかに変わった人生をたどるのです。圧倒的人気のスポットをいくつか挙げれば、ル・サンサンカントロワ le 153、ローザ・シユル・セーヌRosa sur Seine、ベルシヨワールPerchoir、ポワン・エフェメールPoint Ephemère、ラ・クラリエールla Clarière、ラ・ベルヴィロワーズla Bellevilloise、はたまたディヴァン・デュ・モンド le Divan du Mondeや最近再建されたエリゼ・モンマルトル Elysées Montmartreなど。また公演ラインナップをすっかり一新したサル・プレイエルSalle Pleyelも注目です。ワンダーラストWanderlust、ヨーヨーYoyo、バダブンBadaboumなど、パリのナイトライフスポットはますますユニークな場所を選んでオープンする一方、WATO、Surpriseなどの新グループはオリジナリティ全開でパリのソフレに彩りを加えています。ミュージックシーンの重要イベントや名だたるフェスティバルの数々（ロック・アン・セーヌRock en Seine、ウエザー・フェスティバルWeather Festival、ウィー・ラブ・グリーンWe Love Green、第20回テクノパレードTechnoparade、第20回ソリデーズSolidays、ロラパローザLollapalooza 等々）もお忘れなく。そして2018年には第3回「プライドある人々の2週間La Quinzaine des fiertés」が開催され、和気藹々の雰囲気の中で、LG-BTIQの人々の権利のために活動するさまざまな団体にスポットがあてられます。パリにはゲイ・レスビアンフレンドリーな施設は数多くあり、多様なプログラムを提供しています。



© Nicky Bouwmesteer

**エコレスポンスルを大切にする町パリ** 460もの公園や庭園を筆頭にパリには観光客も体験できるエコロジーのあらゆる切り札がそろっています。特に交通機関には力が入れられており、整備されたバスレーン、トラムウェイの路線拡大、誰でも自由に使えるレンタサイクルサービスのヴェリブVélib'や、自動車のカーシェアリングシステム、オートリブAutolib'のネットワーク拡大、開設100年を迎えながら大変便利で使いやすい16路線の地下鉄など、きわめて充実しています。市内で歩行者専用となったところとしてはセーヌの岸辺公園Parc Rives de Seineも加わったセーヌ河岸道路（左岸は2013年から、右岸は2016年9月から）やレビュブリック広場があり、よりエコでダイナミックな新しい都市のビジョンに応じています。ナシオン広場も近々再整備され、パリのエンブレム、バステュー広場でも2018年には中央の七月革命記念柱の下部が一般公開されます。

パリのホテル業界も環境保護により多くの配慮をするようになりました。今ではパリ観光会議局の「持続可能な宿泊施設憲章」に加盟するホテルは460軒を超え、エコラベル化はますます進んでいます。素顔のパリを訪ね、交流したいと願う人々たちにとって、住民とふれあい、「パリ風」の生活を体験するのはかつてないほど容易になっています。

パリはまたあらゆる人に開かれた町、誰をも受け入れ、適応している町です。障害のある人にもアクセスしやすい町であるためにさまざまな方策がとられ、設備の充実もたゆみなく進んでいます。最近オープンあるいは再オープンした施設ではピカソ美術館、フィルハーモニー・ド・パリ、ルイ・ヴィトン財団美術館、ロダン美術館がそのよい例で、誰でも見学やアクティビティが可能で

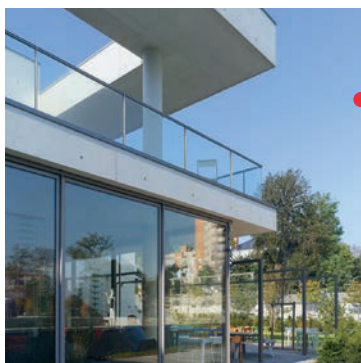


**変化する町パリ** パリは毎日少しずつ、境界線を外に広げています。まずバーチャルな面では、パリには公共の場所、公園・庭園、カフェ、文化施設などに無料Wi-fiのネットワークがあり、シャンゼリゼ通りChamps-Élyséesも今や全域でコネクต์できます。また観光の分野全般で、パリを訪れる人たちに革新的な経験やサービスを提供するためのあらゆるイニシアティブがとられています。こうしたさまざまなプロジェクトは、とりわけ世界初の観光関連スタートアップのインキュベーター、ウェルカム・シティ・ラブWelcome City Labにおいて進められています。ル・カーゴle Cargoも挙げておきましょう。立ち上げてまだ日の浅い革新的な企業、デジタルコンテンツやクリエイティブ産業関連の企業を促進するプラットフォームです。そしてスタシオンF Station F、これは世界最大のスタートアップのキャンパスで旧鉄道駅を改装したアル・フレシネHalle Freyssinet内にあります。

また地理的な面でいうと、公共交通網の拡充ともあいまって、パリは近隣コミュニティとのつながりを深めています。パリ北東部は、18区と19区をサン・ドニSaint-Denis とオベルヴィリエ Aubervilliersの方へ広げ、パリ東部は、新しい境界線をリラ門La porte des Lilasよりも外に描こうとしています。

パリの周囲に隣接する町には、パリの魅力をすでによく知っている人たちを引きつけるが多々あります。サントウアンの蚤の市、ヴァンセンヌ城の新装成ったサント・シャベル、モントルイユからイヴリーにかけてのストリートアートめぐり、あるいはヴィトリーのマック・ヴァル現代美術館など、パリ市内の見どころに加えてあるいは置き換えて楽しむことができます。

野心的な都市計画や建築も見どころで、バティニヨルBatignolles再開発地区の新裁判所nouveau Palais de Justiceなどの大規模な工事が数々行われています。このような活力の証としてもうひとつ挙げられるのはレアンヴァンテ・パリRéinventer Paris 1&2 (パリに新たな価値を付与)です。パリの革新的都市計画プロジェクトを募集するもので、多くの有名建築家も動員されており、明日のパリの姿を予見させてくれます。



# データで見るパリ

## パリの観光に関するデータ

- 2つの飛行場：ヨーロッパ第一のハブ空港。6つの駅は外国の都市とつながっている
- 2時間15分：パリ-ロンドン間
- 6時間25分：パリ-バルセロナ間
- 20 000台以上：自由に使えるレンタサイクルの数
- 110 000室以上：ホテルの客室数 — 2020年までにはさらに7000室が加わる
- 297：メトロの駅の数。13分：パリを横断するのにかかる時間

## パリを選ぶにはこんな理由も

### 物価の安さ

サンドイッチ：5€ / クロワッサン：1€  
 コーヒー：2€ / セットメニュー：15€  
 メトロの切符：1,90€  
 20を超える美術館・博物館が入場無料

### 多種多様な娯楽

パリのオペラ座では年間450もの公演が行われる  
 10 000 軒のバー、レストラン  
 毎日500本の映画が上映されている  
 5738軒のレストラン  
 毎日100のクルージングが発着する

### 豊かな文化遺産

37の橋、  
 10 100トン：エッフェル塔に使われている鉄鋼の量  
 465の公園や庭園  
 2 000種の動物  
 6 500年の歴史

### アート、ファッション

25 000人のアーティストがパリで活躍している  
 パリでは毎日10以上のロケが行われ、画面に登場する場所は5000か所  
 ファッション関連の見本市には100カ国以上が出展  
 パリ13区のストリートアート街を歩けば25のフレスコ画

### 充実した文化施設

200：チュイルリー公園の彫刻と鉢植え樹木の数  
 36 000：ルーヴル美術館で展示されている作品の数  
 200の教会  
 1200万人がノートルダム寺院を訪れる  
 毎日15000人がルーヴル美術館でモナリザの前を通る

### ショッピング

17 500軒のショップ、4つのデパート  
 ヨーロッパ域外からの観光客には12%の免税  
 年に82日間バーゲンが行われている

### ビジネス・ミーティング

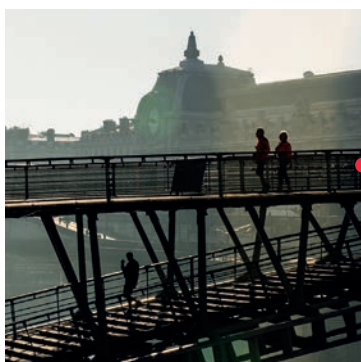
2016年には1118にのぼる会議を開催  
 15の会議場、展示場  
 展示スペースは600 000 m<sup>2</sup>以上

### イベント

一日に300以上のイベントが開催されている  
 ニュイ・ブランシュでは130万人が街に出る  
 シャンゼリゼのクリスマスイルミネーションでは100万個の電球が灯る



© Groupe ADP / Sylvain Cambon



© OTCP / Marc Bertrand



© OTCP / Daniel Thierry



## パリ観光・会議局

世界最大の観光都市であるパリは、古い文化遺産だけでなく、流行の最先端をとり入れるスタイルゆえに、多くの人々を惹きつけます。パリ観光・会議局は、パリ観光に役立つ情報をご提供いたします。

### データ



- 3つの主要な任務：観光客を迎えること、情報を与えること、観光プロモーション。
  - 50万人以上が毎年市内各地の観光案内所に来場。
  - 2017年には毎月100万人がインターネット・サイト PARISINFO.com を利用しました。
- 4つの主要サイトは、フランス語、英語、スペイン語、ドイツ語。  
7つのミニサイトは、イタリア語、ポルトガル語、オランダ語、ロシア語、中国語、日本語、韓国語。
- SNSアカウント「Paris je t'aime (パリ・ジュテーム)」からの発信も (2017年のフォロワー数)  
Facebook: 350,000 ファン — Twitter: 300,000 フォロワー — Instagram: 370,000 フォロワー
  - 10か国語による無料ガイドマップ120万部を発行。英語とフランス語の一般向け無料ガイド30万部以上。

パリの街歩きガイド - Paris City guide

パリのガイド付き見学 - Paris Guided Tours and Visits

アクセスしやすいパリ (障害のある旅行者のための各種情報) — Accessible Paris

- 公式シティバス « Paris Passlib' » セーヌ河クルーズ、パノラミックバス、交通機関乗り放題、60以上の美術館・歴史的建造物への入場、エッフェル塔の優先入場もオプションで加えられます。ミニ、2日、3日、5日券があり、子供・青少年・大人の3段階料金。



### 旅行業者、プレス向けツール

- フランス語、英語、スペイン語、ドイツ語によるフォトライブラリー パリの多様な魅力を伝える5000枚の高画質写真をそろえております。メディアの記事やパンフレットにご利用下さい。

- 数か国語で書かれたプレスリリース

- 総合インフォメーション資料「パリ2018 Paris 2018」:

- フランス語、英語による資料3種「芸術と文化 Arts et culture」
- 多国語による資料5種「ライフスタイル Art de vivre」
- フランス語、英語による資料3種「シーズンごとのパリ情報Paris en toutes saisons」
- フランス語・英語による資料4種「オーダーメイドのパリ Paris sur mesure」

- 英仏2か国語によるBtoB月刊ニュースレター1種類 ParisNews

- 年1回発行の旅のヒントプロシユア1種類 What's up in Paris (4000部)

- イベントオーガナイザー向けガイド1種類 Meeting in Paris (3000部)

- プレス専用サイト 1種類 - press.parisinfo.com

- 業者向けツイッターアカウント1種類

- パリのポスター4種類 (60×80cm)



### パリ観光会議局プレスコンタクト

+33 (0) 1 49 52 53 27

press@parisinfo.com

http://pro.photos.parisinfo.com/

**PRESS●PARISINFO●COM**